釧路の昆虫

釧路湿原には、1,000 を超える種類の昆虫が生息しています。多くの昆虫の卵と幼虫が動かずに冬を過ごした後、4 月下旬には卵から孵り、姿を変えて現れます。この地域の昆虫を見るには、相対的に暖かい 4～11 月が最適です。

理想的な生育環境

湿原の水と植生は、多くの種の昆虫に食料と住みかを提供します。イイジマルリボシヤンマ（学名：Aeshna subarctica）など、いくつかの種は、沼や池の岸にあるコケやスゲの上に卵を生みます。すると、幼虫は沼や池の水生昆虫を食料にできます。ミドリシジミ（学名：Neozephyrus japonicus）のように、より高いところに生息する昆虫もいます。ミドリシジミは、ハンノキ（学名：Alnus japonicus）の葉の芽の下に卵を生みます。ハンノキが、住みかと食料を提供してくれます。

夏の音

夏の間、釧路湿原では、様々な種の昆虫の鳴き声を聴くことができます。エゾハルゼミ（学名：Terpnosia nigricosta）が5月下旬に鳴きはじめ、ついで7月下旬にコエゾゼミ（学名：Lyristes bihamatus）が鳴きはじめます。夏の終わりには、ハネナガキリギリス（学名：Gampsocleis ussuriensis）の鳴き声が湿原を満たします。

一生の仕事

釧路市立博物館に展示されている昆虫標本は、北海道東部の昆虫の専門家である飯島一雄（1928～2016 年）氏が収集したものの一部であり、飯島氏ははるかに多くの昆虫標本を作成しました。彼は、人生の多くをかけて、この地域の昆虫を収集し分類したのです。